

「何でも意見を聴かせてください会」 #1_20240507

13:00-15:00

中央公民館

進行：吉田創氏（外部ファシリテーター）、議事録：山崎元（推進委員）

■グランドルールの確認

- 住民とは＝町民＋別荘所有者・町内勤務者・訪問者など
- 対話の場の構造＝委員会⇄住民の対話の場、「基本方針」段階での意見を聞く場は、4回予定されている
- 目的：「より良い基本方針ができること」「住民意見が基本方針に反映されること」
- 目標：本日参加してよかったと思っていただくこと。少しでもモヤモヤした気持ちが解消されること、ワクワクした気持ちが増えていること
- 参加した皆さんに十分に発言して頂けるように時間調整する場合があります
- 多様な意見があることが重要であり、他の人の意見を遮ったり、否定したりしない
- 個人名が公表されることはなく、匿名化して意見は公開する。参加者の方にも個人名に関しての守秘義務をお願いしたい
- 参加者からの提案：守秘義務は書面にした方がより明確になる

■チェックイン

- 参加者1：コロナをきっかけに移住、テレワーク。軽井沢で事業準備中（庁舎改築とは無関係）
- 参加者2：軽井沢の西側の地区で事業とNP0運営。新庁舎に関して、最初から追いかけている。町のプロセスが不十分（情報が出てこない、結論ありきで動いている）民主的な進め方をしたいと思っている。
- 参加者3：40年IT業界で勤務。個人事業を行っている。趣味で歌手活動。町からの広報メッセージを見てすぐ申し込みをした。
- 参加者4：1960年から親族の別荘があり、70年から毎年別荘生活。2010年に町民になる。商社・学校法人・マスコミ勤務。この10年間で看過できない変化が軽井沢に起きている。その中での庁舎改築巨大プロジェクトは放っておけない。
- 参加者5：役場職員として40年勤務。20年前に定年退職。広報かるいざわを見て意見を言う場があるということを知り、参加。
- 参加者6：20年前に軽井沢に移住し、芸術活動。町の行政のことがわからないので、聞きたい・知りたいと思い参加。軽井沢大好き。
- 参加者7：20年前から別荘生活、本日ご夫婦で参加。これまで関心もなかったが、委員の方から大変さを聞いた。事業費の件などに興味あり。
- 参加者8：20年前から別荘生活、本日ご夫婦で参加。事業費により町の財政が大丈夫なのかという疑問を持ち本日参加。

■お話ししたいテーマ

■意見

● 規模・予算に対してのご意見

- 役場で働く人々は軽井沢の現状と将来をどのように見ているのか？見直し案は従来案の延長線上でしかない&税収の6割が別荘から。様々なうんざりする変化（自然破壊、かっこうが鳴かなくなった、カラスが増えた、駅前駐車場に停められない、メンタルの破壊・渋滞が増えて譲り合いの精神がない）は放置したくない。良い変化（別荘住民が増えた、定住者が増えた、観光客が増えた）もある。良い変化と悪い変化の表裏一体の状態をバランスよく。年に数回しか使わない庁舎にこのようなお金をかけなければならないのか。役場の人たちに考えて欲しい。
- 借金せずにやれないのか？規模を小さくすれば良いのではないか。（アルミサッシや樹脂サッシなどの議題は出したくない。）
- 手持ちのキャッシュの中で、規模を小さく建て替えれば良いのではないか？
- 複合施設は必要ないのではないか？
- 自分のお家を建てるような気持ちで建てたら良い。インフレだから高くなったのはおかしい。必要であれば借金して建てても良いが、本当に必要なのかを考えるべき。
- 事業費のトータル枠を先に議論すべき。手元キャッシュの40億があるのであれば、その範囲内で改築計画を進めるべき。
- ZEBに関しても、初期費用とランニングコストを比較して検討すべき。

● 役場と木もれ陽の里の機能再配置に対してのご意見

- 現状の機能・役割の切り分けが町民にわかりにくく、たらい回しに会う。
- 健康福祉課の提供サービスのレベルアップが必要。役場～木もれ陽の里間の移動手段の問題も関係してくる（バスの便数）。
- 災害時対策も踏まえ、庁舎機能は分散した方が良いのではないか？既存資産の活用も議論されていない。

● ハードとソフトの関係に関してのご意見

- 住民が一番改善して欲しい行政サービスをヒアリングしたのか？一つ一つの行政サービスに対しての改善要望を聞いたのか。例えば、町役場と木もれ陽の里のたらい回しの事例。不便を感じているサービスはたくさんある。ハードを先に決めようとしているのが問題。それらの住民要望の7割を実現するためのハードウェアを計画すれば良い。ハードウェアの議論が先に出てきているが、肝心のソフト（サービス）の改善計画を先に決めるべきではないか？そのプロセスを住民にわかりやすく伝えていくべきだった。

■ 事例：軽井沢病院にかかる気にならない＝ソフトに力を入れて欲しい

■ 事例：教育・軽井沢中学/軽井沢高校＝ソフトに力を入れて欲しい

- ハードありきで、ソフトが不十分な事例は多数あり、ソフトに力を入れて欲しい。

- 一般の住民の町役場の利用頻度が低い。町役場の人たちがどのような業務をしているのかが不明。雪かき・台風後の清掃などの業務は住民に見えやすい。町役場の業務内容を理解できるようにして欲しい。
- 魅力的な公民館、行ってみたい公民館もソフトからもたらされると思っている。
- 町のプロセス・情報公開・コミュニケーションに関して
 - これまで「対話」になっていない。一方通行（住民→行政）のコミュニケーションに終始している。
 - 委員会の場で、町の職員が発言することはできない。外部の委員の中にも町関係の人がいる。町職員が発言できる心理的安全性を作る必要がある。（匿名性の担保）
 - ZEBの意義・目的に関して伝わっていないという意見あり。
 - 110億円が高いか安いかはよくわからない。それをしっかりと説明していただければ、あとは町長と議会が決定してくれば良い。起債に関しても、過去世代だけではなく、今の世代、将来世代が公平に分担するという考え方は合理的である。
 - 豪華な華美な建物はいらない。
 - 行政の建築物はそれなりの構えが必要だということには同意する。ただし、豪華・煌びやか・見た目が派手が必要と思っている住民はいない。サービスを実現するために適切な必要量・クオリティの庁舎になって欲しい。

■質問

- 住民の定義についての質問：なぜ頻繁に訪問する人も含まれるのか？
- 資料に掲載してある48億円は決定事項なのか？→凍結になった際の金額＝基本設計の完了時（見直し前）の金額である。
- 町役場側の建築アドバイザーの起用は進んでいくのか？
- 現在の役場のDXの概要はどうなっているのか？＝事例：役場機能のネットワーク化（木もれ陽の里）
- 公民館の議論は前町長時代にはなかったのではない？今さら出てきたのではない？→当時は、一期工事（庁舎）・二期工事（公民館）に分けられていたので、公民館の検討は時期的に後だった。
- 町長にこの会議の生の声は伝わるのか？＝公式ルートは、委員会→町長のルートで報告が上がる。町役場内部では、担当課から町長に直接報告が上がる。
- 見直しに伴うサンクコスト（既にかかった費用）はどうなっているのか？＝見直し前までに約3億円（1億が山下三浦JVの契約料、2億は地質調査、移転費用など）。現在の山下三浦JVとの見直し契約は約6千万円。
- 職員内部から庁舎改築に反対する意見が出ていないことが不思議。

■チェックアウト